

源 義経

北崎 拓

(漫画家)

【漫画家になるまでの道のり】  
宇都学芸員：本日はお忙しい中ありがとうございます。さっそくなのですが先生が漫画家を目指されたきっかけを教えてください。

北崎 拓：実は目指したということはないのです。高校生の時に漫画を投稿していた先輩がいて、それまでは漫画をノートとかに描いていたのですが、漫画を描くなら投稿しなきゃだめだよって言われまして。確かにそのぐらいのことをやってみてもいいかなと。それで原稿料がもらえたら、うれしいなという気分で高校2年生の時から始めました。1本目を描いた時、お金をもらって気をよくしたので、2本目を描いたりして。高校生の間に読み切りを3本くらい雑誌に掲載してもらいました。

次はバイトがわりに漫画を描きながら大学生をしようと思ったのですが大学に落ちてしまいました。その時、住んでいたのは関西だったので、すけれど、両親が九州に転勤することが決まっていたので、僕は一人で関西にいてもしょうがないと思い、大学に受かったら東京に行く、落ちたら漫画家をアシスタントからやって腕試ししてみてもいいかなと考えていました。当時は80年代で一浪とか当たり前でしたから、また一年勉強して大学生やっても遅くないと思いました。そしたら19歳の時に東京に出てきて夏には連載をいただけたので、そのまま漫画家をずっとやっている感じです。

### 【「ますらお」誕生秘話】

宇都：今まで少年誌で恋愛漫画を描いていたのが、源義経を題材にした「ますらお 秘本義経記(以下、「ますらお」と略)」を描いたきっかけとは何だったのでしょうか。

**北崎**：当時、三国志が好きだったので、三国志を題材に漫画を描きたいという野望がありました。ただ自分が三国志に挑戦するには題材が大きすぎるだろうというのがありましたので諦めました。他にもいくつか候補は編集側には出したのですが。

**宇都**：どんな候補があったのですか。

**北崎**：一つは卑弥呼です。しかし、歴史を専門に勉強されていた当時の編集長が「それは歴史ではないだろう」と。確かに歴史というよりはファンタジーですよってなって。黒田長政とか戦国時代の候補もいくつか出したのですが、ただ少年誌でやるにはマニアックすぎるといっているがありました、そこで源義経を描くのはどうだろうと考えました。

最初は源義経の脇にオリジナルキャラクターを設けて、そのキャラクター視線から見た義経を描こうとしたのですが、源義経を調べれば調べほど漫画みたいな人物だと思ったので、こんな人物の隣にフィクションのキャラクターを置くよりも、源義経自身を主人公にしたほうが絶対面白いだろうと思った次第です。

## 【「源 義経」の人物像】

**宇都**：先生が描かれた「ますらお」シリーズには結構人間の裏の部分みたいなのを描かれています、読者の反応はどうでしたか。

**北崎**：元々、自分の中では源義経という人物は吉川英治作品「新平家物語」から、悲劇的な優男印象がありました。戦になると天才的に強いのに、美形で物憂げな顔をしているというイメージです。源義経を調べ始めると、まずそこが疑わしいと思うようになりました。一ノ谷であれ、



源 義経「ますらお 秘本義経記 - 大姫哀想歌 -」より

屋島であれ、壇ノ浦であれ、あまりにも奇天烈なことをやりますし、これが本当に物憂げな思慮深い人がやることとはとても思えなくなりました。

僕はキャラクター設定をするにあたり、源義経という人物は本来人が持っているべき感情が一部欠落している人物にしようと思いました。それはなぜかと言いますと、ナポレオンは奇策がうまかったと伝わりますが、その根源は一説によると、例えば背が小さくて劣等感があって、それをばねにしたとのこと。僕はそれを義経に取り入れました。源義経は小男であったという伝承がありますが、それが肉体的だったり、性的だったり、そういったものに劣等感をもっている人間だから、物事のルールに縛られない、破天荒な性格を持ちえたのだったという感じで設定

しました。

それを漫画にぶつけた時、反響はすごく多かったです。ファンレターも数が膨大でした。とても好意的なファンレターを貰うのですが、いかせんアンケートの結果が良くありませんでした（笑）。

**宇都**：反響が良くも悪くもあつたのですね。

**北崎**：そうですね。しかし熱烈に好きだつて言ってくれた手紙に支えられて、「その人のために僕は描くんだ！」と当時は思っていました。

### 【30代での選択】

**宇都**：当時先生は30歳くらいですよ。

**北崎**：そうですね。だから、青年誌にいかうかなんかと思つている頃で。少年誌の前の恋愛ものの中で、少年誌なのにそういう性的な部分を描いて。少年誌で求められるいわゆるかわいラブコメを突破してしまつた感がありました。恋愛のその先を描くならもう青年誌しかないと思つていました。最後に少年誌で好きなものを一本描かしてあげるよと編集側から言われたので、歴史物をやりたい旨を伝えたところ「ますらお」をやらしてもらつた経緯があります。

### 【好きなキャラクター】

**宇都**：「ますらお」を描いているときに平維盛が一番好きつて仰つてましたけど、屋島まで描いてそれは変わりましたか。

**北崎**：最近は維盛を描いてないですからね。だいぶ印象は薄くなつてい

るのですけれど。思い返してみても維盛は好きなキャラクターでした。今でも好きですけど。今だったら男のキャラクターだったら、使い勝手がいい弁慶が一番ブレなくて描きやすいとも思いますし。

女性キャラクターでは郷御前（「ますらお 秘本義経記 - 波弦屋島 -」以下、「波弦屋島」と略）では「萌子」という名前で登場）は昔から出すつもりでいました。ただ、時代劇で出てくる郷御前は登場してもスパイというか悪い女に描かれる、もしくは運命に翻弄される悲しい女か、そもそも静をたたせるためにいないということにされてしまうと、どれかでした。

なので、郷御前を出そうという気持ちはあつたのですけれど、静と義経ということで今まで描いてきたので、もう一人新しく登場させることについては悩んでしまいました。いよいよ「波弦屋島」で登場させなきゃいけないつてなつたときに美人ではないのだけれど、女の美しいとかに興味がない義経に対して、義経と同じ世界が見えるイメージーション力



©北崎 拓

萌子「ますらお 秘本義経記 - 波弦屋島 -」より